

2016 年度春学期 授業アンケート「教員コメント」の「FD委員会総括」

FD 委員会

<座学>

1. スライドのスピードや黒板の使い方といった技術的な改善要求には、素早く対応しようとしています。
2. 複数の学生から矛盾した要求を出されて、苦慮しているようです。しかし、それらの要求を止揚して、質の高い授業を目指そうとする意欲が読み取れました。
3. 例年、教員の個性や癖を捉えて、それを改善点とする授業アンケートの記述にとまどう教員がおられます。ただし、今回は例年と比べて、こうした教員コメントが少なくなっているようです。
4. 授業の難易度に注意を払おうとするコメントが多くありました。専門用語など、学生への説明をより丁寧にするとしたコメントが散見されました。
5. 学生の発言を促す工夫をしています。大人数の授業でもアクティブ・ラーニングによる質向上に努めているとしたコメントが散見されます。
6. 大人数の座学授業であっても、「予習復習を配慮しよう」とするコメントがありました。講義以外の時間で、学生たちに学習を促そうと苦慮されているようです。
7. 授業アンケートの記述に、「学生が調査疲れしている」との指摘があったそうです。FD の負荷軽減について言及された方がおりました。

<演習・実習系科目>

1. アカデミック・リテラシーについては、批判的意見を含む様々なコメントが寄せられており、科目としての今後のあり方を検討する必要がありそうです。
2. 「少人数教育とは呼べない学生数である」ことを指摘するコメントが見られます。少人数教育をすすめるために行ったカリキュラム改革について再考する必要がありそうです。
3. 演習指導では、「学生の「主体性」を促すことを特に意識している」としたコメントが散見されます。
4. 演習科目の教員は、学生とのコミュニケーションを楽しんでいるようです。良好な人間関係を構築し、教育効果を高めようと試みています。

<語学>

1. 教員各自が創意工夫して授業をわかりやすくし、学生との関わり合いの中でそれぞれの外国語を身につけさせようと努力している様子がうかがえます。
2. 語学という科目の性質上、予習、復習が不可欠であるが、教員各自の工夫により、英語科目などではある程度予習・復習ができています。一方で、初習外国語でありながらほとんど予習・復習をしない学生がいる点を嘆く教員もいます。
3. プロジェクター、ホワイトボードの使い勝手が悪く、改善を求める要望が学生からあがっているようなので対応する必要がありそうです。またパソコンのアップデートを要望する声もあります。
4. 学生の学習意欲を高めるためにパソコン室の利用時間をもっと早め、週末の利用も可能にしてほしいとの要望がありました。検討する必要がありそうです。
5. 初習外国語の履修者が40名に達するクラスでの大変さを嘆いている教員がいます。よりよい環境で語学の授業が行えるよう、早急に適正なクラスサイズにする必要があります。
6. 語学教育に関する学外の研修から得られたものを授業に取り入れている教員も一定数いるようです。また、同一言語を教える教員同士で授業参観をし合い、授業に生かしています。
7. 教科書の難易度が授業運営に大きく影響することから、各教員が苦勞している様子がわかります。